

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールの乱れが続いており、遅延が発生しています。特に、スエズ運河近くの紅海での混乱が大きく影響し、アジアの主要乗継地であるシンガポール港や釜山港では混雑が相次ぎ、慢性的なコンテナ不足や遅延に拍車をかけています。船会社はスケジュール調整のためにブランクセーリング（抜港）や一部の長距離航路を欠航する対応を行っていますが、状況の回復までは時間が掛かる見込みです。

また、11月の米国大統領選挙の結果次第では、中国から米国への貨物に関税をかける可能性もあることから駆け込み需要も増加しています。

カナダでは鉄道労働組合(TCRC: Teamsters Canada Rail Conference)とカナディアン・ナショナル鉄道(CN)および、カナダ太平洋カンザスシティ・サザン鉄道(CPKC)の労使交渉が難航しています。TCRC側は投票によりストライキ実施権を獲得しましたが、具体的な日程は確定しておらず、進展がない状況が続いているため、注視が必要です。

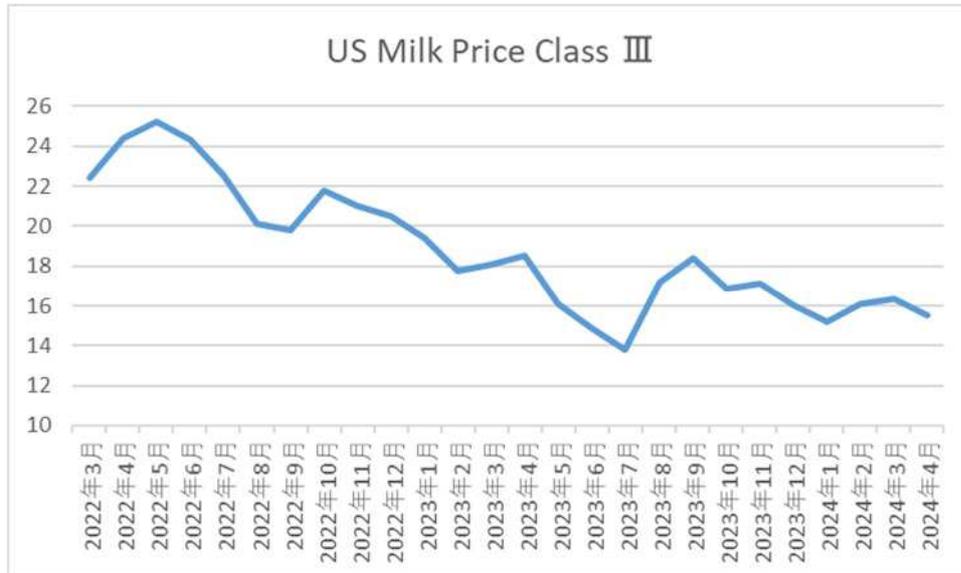
ビートパルプ

【米国】

産地では天候不良により一部遅れていた24-25年産ビートの播種作業が終了しています。ビートパルプの市場については堅調な米国内需に加え、ヨーロッパからの引き合いもあり順調に出荷されています。

米国乳価について

USDA（米国農務省）の発表によると、乳製品市場は世界的な物価上昇の影響で停滞しており、その多くを占めるチーズの需要が低迷しています。4月の全米平均クラスⅢ乳価（チーズ向け乳価）は100ポンドあたり\$15.50と2022年5月（\$25.21）をピークに減少しています。乳価の低迷により米国内の酪農家は積極的に買付をすることができず、アルファルファの産地相場は落ち着いていますが、今後の乳価や作況次第では需要が変化する可能性もあり注視が必要です。



(出典：USDA 全米平均クラスⅢ乳価 単位：米国ドル/100ポンド)

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは、1番刈の収穫作業が終盤を迎えています。降雨被害を受けた圃場や、冷涼な気候の影響で乾燥期間が長引いたことにより過乾燥や色褪せた品質も発生していますが、葉付が良く色目が良好な上級品が多く収穫されています。産地相場は米国内の乳価も低迷していることから需要は停滞しており、一部の生産農家は1番刈終了後にトウモロコシや豆類に転作すると予想されています。



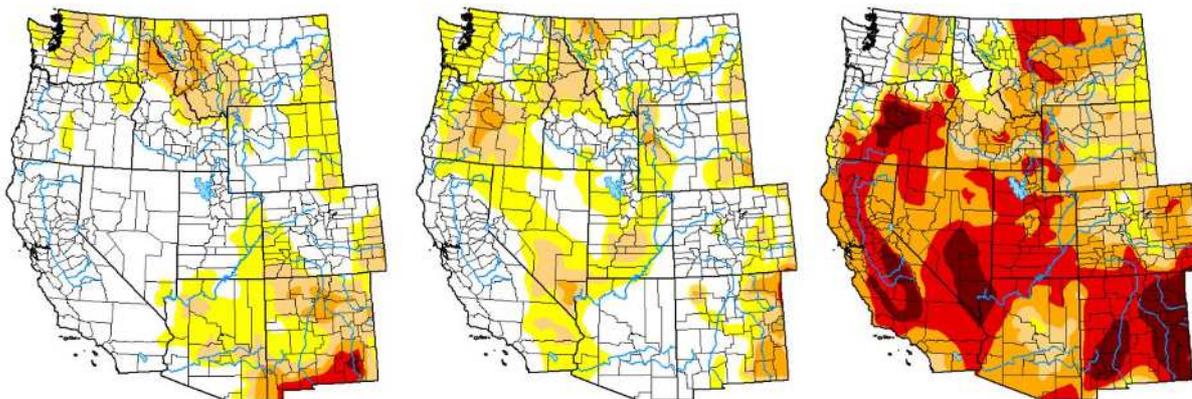
24年産1番刈アルファルファ キュアリング（乾燥）中の圃場
（5月下旬コロンビアベースンにて撮影）

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が開始されています。2

4年は干ばつによる水問題もなく、生産への影響はない見通しです。

同州中部クリスマスバレーでは5月に入っても最低気温が氷点下になるほど冷涼な気候が続いており、収穫作業は6月下旬から開始される見込みとなっています。高成分品質を求め米国内の買付業者や輸出業者との買付競争も激化することから相場上昇が懸念されています。



米国西部州における5月下旬の干ばつ状況の比較
左から2024年、中2023年、右2022年
色が濃い（赤）ほど干ばつが深刻な状況
（出典：Drought Monitor）

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、春先の冷涼な気候により収穫作業全体に遅れが出ていますが、現在3番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。3番刈は上級品～中級品までの品質が発生していますが、産地での気温も上昇し始めていることから、直近で収穫された品質は低下しており中級品～低級品の発生が中心となっています。5月に引き続き、米国内の酪農家は乳価が低迷していることもあり必要分のみ買付している程度で、輸出向けについても積極的な買付は行われていませんが、中東向けで高成分な品質の引き合いが出てきている状況です。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点でのアルファルファの作付面積は144,365エーカー（前年同期は152,480エーカー）と前年同期比95%と減少しています。

ユタ州

産地では1番刈の収穫作業が行われています。冬季期間に十分な降雨、降雪があっ

たことで干ばつ状況も改善され、生産環境は好転しており、このまま良好な天候下で収穫作業が進めば良品が多く発生する見込みです。24年産は生産周期によりアルファルファへのクロップローテーション（輪作）が多く、作付面積、生産量は増加する見込みです。産地での未成約在庫は中～低級品が中心で、上級品については近隣州からの引き合いもあり限定的です。



（24年産1番刈アルファルファ圃場 5月中旬ユタ州にて撮影）

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは、1番刈の収穫作業が開始されています。相場の低迷から1番刈収穫後に豆类やジャガイモへの転作が予想されていることに加え、貯水池の水不足の影響からエレンズバーグで夏期以降に取水制限が行われると見込まれており、2番刈生産量の減少が懸念されています。

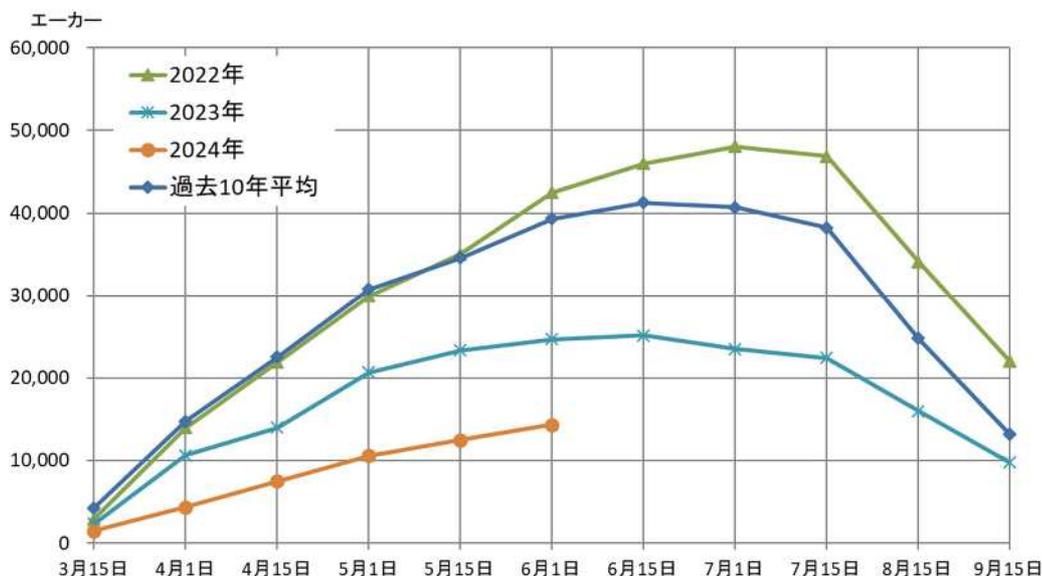
また、米国内の馬糧向け需要も堅調に推移していることや一部の輸出業者が保持していた繰り越し在庫の出荷目途もついていることから、生産より需要が上回り、産地相場高騰の一因になり得ることも考えられるため注視が必要です。

スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、現在24年産の収穫作業が順次開始されています。1番刈の収穫作業終了後、2番刈に進むかどうかは相場次第と考えている生産者も多く、2番刈での発生が多い中～低級品の発生は限定的になる見込みです。23年産の在庫に加え、未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため作付面積の減少による供給力に懸念はありませんが、今後の相場次第では今期の生産量と繰り越し在庫より需要が上回ることも考えられるため注視が必要です。

灌漑局の発表によると、6月1日時点の作付面積は14,371エーカー（前年同期は24,704エーカー）となっており、前年同期比58%と、低水準での推移が続い

ています。



インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移（単位：エーカー）

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1 番刈の収穫作業が終盤を迎えており、圃場によっては2 番刈の収穫が開始されています。これまで収穫された1 番刈の品質は良好で柔らかかな上級品が大半ですが、一部春先の冷涼な天候で草が伸び切らず成熟した中級品も発生しています。

灌漑局の発表によると、5月15日時点の作付面積は21,353エーカー（前年同期22,170エーカー）となっており、前年同期比98%とやや減少しています。

日本向けの出荷は安定していますが、韓国向けでオレゴン産ストローの在庫が限定的ということもあり代替としての需要が増加しています。

ファロープログラム（休耕地政策）について、政府当局内での協議は最終局面を迎えています。実施の有無については未だ決定されていません。

バミューダ

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点の作付面積は66,447エーカー（前年同期：64,852エーカー）と前年比102%とやや増加しています。

現在、バミューダヘイ2番刈の収穫作業が開始されており、米国内馬糧向けに取引されています。ストロー生産は種子収穫が終了した圃場で6月中～下旬から開始される見通しで、安価な繊維源としての需要も増加しており荷動きは堅調に推移しています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では土壌の水分状態を危惧する声も出ていましたが、4月下旬以降、降雨に恵まれ土壌状態は良好で、1番刈の収穫は7月中旬頃から開始される見込みです。

同州中部のクレモナ地区では昨年、干ばつや降雨の影響で良品は限定的となりましたが、土壌状態も良好なことから良品の生産が期待されています。産地在庫はカナダ国内の酪農家からの引き合いが堅調ということもあり限定的です。

豪州産オーツハイ・ウィートストロー

24年産のオーツハイの播種作業は最終盤を迎えています。春先までの降雨不足による影響で圃場は乾燥していましたが、5月から西豪州の多くの地域で降雨があり、6月に入っても東豪州や南豪州で降雨が続いたことで生育期のオーツハイにとって恵みの雨となっています。今後、降雨が続けば生産に問題はない見通しですが、乾燥した気候が続くと収量への影響も危惧されることから注視が必要です。

韓国および台湾向けの輸出量は例年をやや上回る水準で堅調に推移しており、中国向け出荷については海運の乱れもあり少々停滞しています。

豪州海運情勢については紅海問題やアジア地域の積替港に残留している大量のコンテナの影響により、本船スケジュールの乱れが続いています。多くの船社はblank sailing（抜港）や寄港スケジュールの調整を通して正常化に努めていますが、解決には時間が掛かる見通しです。

以上